

# 情熱のバイラオーラ

フラメンコの生活なんて考えられない

佐藤 夏子さん



という。

## 公演

うちのパパが亡くなって、たくさんの方がお葬式に来てくださったから、一周忌に初めてお礼も込めて踊ったんです。この時は無料で、千二百人ぐらい入るところで、すごくたくさん来てくださったの。

パパのお葬式の日、和讃といって、お坊さんが追善供養で歌いながらお経を唱えてくれたんです。霊を安めて、安心して仏様になってくださいって優しい素敵な歌なのよ。私、初めてそれを聴いて、「ワー、私これで踊りをやるわ!」と思ったの。追善供養、パパを供養するっていう意味と、お世話になった方にお礼をするつもりで踊ったんです。でも、これをやったらパッと区切りがあったよ。

公演は、いつも時間に追われ、まわりの人々に助けられながら本番を

佐藤夏子さんは小学校の教師。図工準備室のドアをノックすると、中から「どうぞ!」と弾むような声が出た。「まだ片づいてなくてむさつ苦しいところですが」と、歯切れよくテンポのある口調。初対面とは思えない親しみのこもった笑顔。

舞台上、足を踏みならし、耳飾りを飛ばすほど回っていたあの情熱的なバイラオーラ(フラメンコダンサー)の素顔は、舞台の上と全く違和感なく、期待を遥かに越えていた。

今年2月に東京でフラメンコの公演を成功させた佐藤さんに会ってお話をうかがった。

## フラメンコの素顔

約二十年前に、スペイン舞踊で有名な河上鈴子先生の舞台があることを新聞で読んで知って、何となくその言葉にひかれて、あー観てみたいなと思って行ったんですよ。そして、さすがに素敵だね、妹と行ったんですよ。妹の方が、「習いたいけど一人じゃ恥ずかしいから一緒に行って」と言っているので、私もついて行っただけです。行ってお話を聞いたらすごく面白いの!既成の女の価値観に囚われないわけ、全然!それで、話が振るってるのよね。ロシア語か

どの要素を取り入れて、先生が舞台用に作り上げていく創作で、舞台の度に先生の創作を踊らされたんだけど、一回で覚えなないと怒られるんです。ところが、先生は二度と同じことはやらないの。同じような型が紙に書いてあって、それを教えるというタイプではなくて、先生のアイデア……聞いたものを表現する。それを取りなさい、スツと盗みなさいという教え方なのよね。でも、それが今になってみると、かえってすごく良かったのよね。いつも舞台の度に自分の創作を入れるのだけど、河上先生のお陰だと思っんです。

その後、河上鈴子氏の勧めで、第二子姪中に、夫を説き伏せ、踊りの神髄を掴むための「渡西し、その後も数度渡西した。

一九八六年、佐藤さんを応援してくれていた優しく頼もしい夫が、突然、病氣のために他界。失意の中で踊りの曲が支えになったこともある



今回の公演も3カ月で仕上げたのよ。それも新しく作り上げた曲が4曲。日本の『夕鶴』を創作で踊ったんだけど、私スベイン語が下手なのよねだから、まず絵本を見せてジェスチャーを使うの。こんなことを私はやりたいんだけど、あなたは分かるか？って共演したスベイン人たちに聞くと、「やる」とは言ってるけど、日本のものがわかるのかしらと思っでしょ。最初は猜疑心から始まって、それがだんだん信頼関係に変わっていくの。でも、最後の方は私以上に『夕鶴』を理解してたよ。

公演なんて、どうして私こんなバカなことをやるのかしらって思うこともありますよ。赤字で、次、立上げられるかっていう感じよ。でも、終わると、次にやりたいことがヒョイって浮かぶのよね。そうすると、次への準備をしちゃうわけ。やると決めてから、大急ぎで会場を探して、衣装を考えて、舞台装置のこと、チラシ、ポスターも全部下案は自分で考えるのよ。

普段は肩凝り直しに練習するだけ。うちへ帰るとやるのがいっぱいあるでしょ。ごはんを炊いたり、



佐藤夏子(さとうなつこ)さん

- 神奈川県藤沢市辻堂小学校教諭
- 1987年5月第1回フラメンコ公演  
——藤沢市民会館大ホール
- 1989年1月第2回フラメンコ公演  
——茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 1993年1月第3回フラメンコ公演  
——茅ヶ崎市民文化会館大ホール
- 1993年2月第4回フラメンコ公演  
——東京芝ABC会館

は必ず舞台でやりたいね。

### フラメンコの魅力

私的な面では全く知らない者同士なのに、同一空間の中で、演奏の呼吸がピッタリと合うという体感が、何にも増して魅力ですね。

それに、とにかく疲れが全部とれるんです。仕事が忙しくてさぼると、だんだん具合が悪くなってくるんです。肩が凝って、頭が痛くなって、病人みたいになると我慢ができなく



それと歌がすごくいいの。それを聴いているとめり込んで、嫌なことも何も全てを忘れちゃうのよ。人間が生きていると、うれしいことや悲しいことがいろいろあるでしょ？それが一つの曲の中に全部入っていて、何だかのめりこめるんです。だから、嫌なことがあると、家で音楽をかけっぱなし。そうすると、不思議なことに本当に幸せになるんです。フラメンコがない生活なんて考えられないわね。

### フラメンコと教師

二つあるからやれると思う。教師をやっている限りは絶対フラメンコをやっていくと思う。

仕事が終わって、夜六時くらいに踊りに行く時、電車の中を走っていきたくらいのうれしさがあるんです。ところが、日曜日なんか朝から時間がいっぱいあるでしょ、むしろさばりなくなるのよね。だから、ど

ちらもあって、ちょうどなんだと思いますね。

人からお金をもらって舞台上立つのだから、見応えのあるものにするためにフラメンコのお稽古に専念した方がいいのかなあ？とも思います。二人の子どもを育てなきゃいけないかったし、やはり教師は楽しいんですよ。それに、学校に来るとすごく忙しいから、パパがいない寂しさを感じてられないっていうこともあります。それと、パパが死んだ後、私は私で認められなければいけない。私が私として信用される自分にならなければいけない。と考えるようになったこともあって、教師を続けてきたような気がする。

私、パパが死んでから生まれ変わったと思うよ。人間が生きてるっていうのはこういうことだったのかもしれないことがよくわかる。いい意味でも、悪い意味でもね。

### 感性を磨く

私は自分の感覚をいつも良くしておくことには気をつかいますよ。いいものに触れるということにはうんと気をつかう。それは河上先生の影

響だと思っ。人間が汚くなると舞台が汚くなるとよくおっしゃってたから。普段の生活の中で、先生の戒めの声が聞こえてくるみたい。いい音楽とか、いいものを見ると、ね！ウィーンとのめり込んじゃうのよ。やっぱりそうなるでしょ！冷静になると、何なんだろうって思うよ。でも、無難に生活しても、楽しいことがないよね。

### インタビューを終えて

身振り手振りを入れながら、時折、自分の言葉に笑う。当時は辛かったであろう話が微笑んだ口から明確な言葉で出てくる。自分が元気なだけでなく、人をも元気にしてくれる人だ。「あまりいいものに出会わなくておそろしいの。またまた公演をしたい！と思っちゃうでしょ。」と困った顔を見せながら、おおきな瞳が輝いていた。是非ともいいものに大いに出会って大いに舞ってほしいと思った。

(河野 由美)